

—メッセージ— 2017年2月

「ドラえもん」



娘が小3のとき「ドラえもんの時空間・・・」という映画と一緒に見に行った。テレビでコマーシャルを見た娘が「見たい！」と言うので映画館まで行くことになった。映画といってもアニメである。しかし何かほのぼのとした庶民感覚というものがあつた。暖かくゆったり生きられる世界があつた。

主人公ののび太君は、弱虫、泣き虫だが、優しいところがある。

失敗しながらもドラえもんの力をかりて事件を解決していく。ドラえもんも「ネコ型ロボット」なのにねずみを怖がったり、どら焼きが大好きだったりする。「不思議なポケット」から色々な仕掛けを見せてくれる。「どこでもドア」をはじめユーモアたっぷりだ。映画で見た「壁掛け犬小屋」なんてあれば、つい我が家も犬が飼えるかもしれないと思ってしまった。静香ちゃんは明るく優しい女の子である。どこか令嬢タイプである。彼女は私たちを含めみんなの憧れだろう。ジャイアンとスネオは、のび太君をいじめるが、母親に怒鳴られたりして弱さもある。とても人間的だ。そして最後には、のび太君、ドラえもん、静香ちゃんと協力して、悪者をやっつけ、事件を解決してしまう。

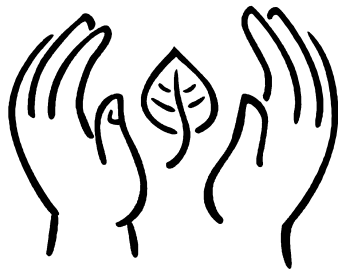
登場人物がそれぞれ弱さやへまを明るく出し合い、さらに優しさと正義感を持ち合わせている。ここが子どもにも大人にも共感をもたれる所以なのだろう。

ドラえもんの「不思議なポケット」は子どもに夢を与えてく

れる。大人にも夢を与えてくれる。のび太君のように「ドラえもん助けて！」と言うと何か仕掛けを出してもらえると助かる。私は障害をもった方の就労支援や生活支援をしてきたので、「誰でも入れる会社！」「どんな障がいの方でも受け入れてくれる作業所！」なんて仕掛けがほしいと思った。

しかしこの仕掛けも完璧なものではなく、自分勝手に使ったり、使用方法を間違えるととんでもないことになる。これは最新技術といわれるものでも完璧なものではなく、「人間は過ちを犯すもの」ということを確かに教えている。

私たちの人間社会も本来はドラえもんの世界のように、弱さやへまを明るく出し合い、さらに優しさ、正義感を持ち合わせているものなのだろう。しかし人間社会は、人間自身のもつ罪の故に、もっと暗く、陰湿であり、見せかけがあったり、ごまかしがあったりする。



ドラえもんの「不思議なポケット」は確かに私たちのあこがれだ。ユーモアと夢をかなえてくれる仕掛けはほしい。しかし実際はこのようなポケットは存在しない。もしあるとすれば、それは神様御自身だろう。私たちの罪を赦して下さり、どんなときにも私たちを助けて下さる。もし私たちが「不思議なポケット」である神様を持つなら、罪赦され、どんなときにも助けていただける。そんな私たちは、もっとユーモアと夢を持って自分自身を生きていってもよいのではないだろうか。もっと社会正義のために立ち上がってもよいのではないだろうか。

「事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。」(エフェソ書2章8節)

(牧師 小林則義)